

式 辞

本日、学位記を授与された七名の皆様、大阪大学後期博士課程の修了、誠におめでとうございます。新型コロナウイルスが発見されて以来、アフターコロナに向けてようやく灯りがみえつつあります。しかし、感染自体はまだまだ収まらず、厳しい時代が続いています。特に皆様は、博士課程の在学中のほとんどをコロナ禍で過ごすという苦難を経験されてきました。そのような状況にも関わらず、皆様は本日みごとに学位記を受領されました。皆様

のこれまでの御努力に心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。また、御家族の方々には、これまでの研究活動へのご支援に深く感謝申し上げますとともに、心より祝福の言葉をお贈りしたいと思えます。

さて、情報科学研究科は今年、創設20周年を迎えました。ひとつの節目を迎えるに当たって、いくつかの施策に取り組んでまいりました。まず、研究科の理念を見直しました。その骨子とす

るところは、三点あります。情報科学は、シャノンの情報理論に始まり、その後ハードウェア、ソフトウェア、コンテンツへとその対象領域を拡大させながら、学問領域として確立されてきました。さらに、情報科学という学問領域は、データから構造化された情報を取り出し、情報から価値を見出し、知識を生み、そして知能へと現在もお進化を続けています。今後、情報科学や、生命科学・数学・数理論科学など情報科学の基盤となる分野の成果をシリーズとしながら、関連分野の発展を支え、研究成果を社会に還元していくことが大切です。情報科学が学問領域として確立されたことを受け、より未来志向で情報科学を捉え直したいという思い、また、社会課題を解決し、研究成果を社会に還元したいという強い思いを意識したものとしています。

ご存じのように、今、情報技術はあらゆる研究分野において不可欠の技術になっていきます。特に最近ではデジタル変革(DX)、すなわち、デジタル技術の活用により、組織における情報処理のプロセスを変革することが言われています。もちろんそれだけに留まりません。組織構造や社会構造そのものを変革する可能性についても多いに期待されています。一方で、情報技術の社会への拡がりにより、情報科学分野の研究者だけでは解決できない課題も数多く見られるようになってきました。その結果、情報技術を必要とするさまざまな分野の研究者との協働が不可欠にな

っています。言い換えれば、そのような協働なくして、情報科学の一層の発展は望めない状況に至っているということです。また、情報科学以外の他分野においても、AI技術の活用やビッグデータ処理を行うというだけでは新規の研究として認められなれないという状況が生まれつつあります。情報技術のさらなる高度化を前提とした研究が求められるということであり、他分野においても情報科学との一層の連携が必要になっています。

我々情報科学の研究者は、人類の一員として、21世紀社会の発展に責任があります。そのために、我々は高度な情報技術の活用をあらゆる分野に遍在化させ、産業社会や経済社会、さらに、日常生活においてDXを浸透させ、発展させる責務を負っています。もちろん、情報技術の過度な発展が招いた負の側面もすてに多くみられます。例えば、SNSの存在が社会の分断を招いているという指摘は数多くあります。多様性のある社会では、意見

が対立するのは当然のことです。だいたいなことは、意見の対立があつたとしても、それをコミュニケーションの力によって解決する努力を続けることだと思います。その役割が情報科学の研究者にも求められるということであり、それが実現されて初めて、情報科学が社会から受け入れられるということだと思います。

新しい技術に対する利用者の受容性は多様で、概して高くありません。そのため、情報技術の利用者がその利用に当たって望むことはなにか、さらに新しい暮らしのありかただけでなく、都市や文明の在り方そのものをどのように変えていくか、そのような構想が必要です。人に対する深い理解、人が生来的に持つ性質だけでなく、限界や多様性に対する理解なくして情報科学は成り立ちえないということだと思います。

これらのために必要なこと、それが、さまざまな研究分野との協働や融合であり、これからの情報科学に求められる使命そのものであると考えています。みなさまもこの機会にぜひ、社会問題の解決やさらなる社会発展に貢献する研究成果の社会還元について考えていただきたいと思ひます。

もちろん、みなさまは、博士学位を得る過程で得た研究力だけでなく、コミュニケーション力や構想力を身に付けて来られたことと思います。是非、そのような力を発揮して、未来社会の発展に貢献いただきたいと心より願っています。

最後に、皆様の未来に幸多きことを心より祈念し、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和四年九月二十二日

大阪大学大学院情報科学研究科長

村田正幸